

第35回黒部川土砂管理協議会 議事録

●開催要件

○開催日時 平成26年2月18日（火） 13：30～16：00

○会 場 黒部市於、「黒部市国際文化センター コラーレ」

○出席者

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| ・堀内 康男 黒部市長 | ・小野 洋 富山県 理事・ |
| ・米澤 政明 入善町長 | 生活環境文化部次長 |
| ・脇 四計夫 朝日町長 | ・吉田 秀之 富山県農林水産部次長 |
| ・加藤 昭広 富山森林管理署長 | ・山崎 裕造 富山県土木部河川課長 |
| | ・吉津 洋一 関西電力(株)北陸支社長 |
| | ・入江 靖 北陸地方整備局河川部長
(座長) |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)北陸支社

●議 事

- (1)平成25年度連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流の実施経過について
- (2)平成25年度連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流に伴う環境調査結果について
- (3)第40回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について
- (4)平成25年度連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見について
- (5)その他

●協議会の結果

- ・平成25年度に実施された連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流に関しては了承する。
- ・協議会での意見及び第40回黒部川ダム排砂評価委員会の意見を踏まえ、平成26年度連携排砂及び環境調査計画を策定し、次回の協議会に提示すること。

(1) 平成25年度連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流の実施経過について

座 長

ただいまの議題1の報告につきまして何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

A 委員

資料－1－①の8ページの下半分に農業用水の取水停止の時間帯の帯があります。取水停止をするというのは、用水を利用する農業者側のためでもあるという理解はしていますが、これはなるべく長くないほうがいいという思いもあります。教えていただきたいのは、取水停止の開始と終わりの時間がどのように決まるのかというところがまず1点あります。

先ほどの説明の中では、水位低下開始の6時間前というふうなことをおっしゃったようにも聞こえたのですが、予測してされるのか、どうしてそれが読めるのだろうかと思うので、例えばスタートに関してはあまり柔軟性はないと思うのですが、連携排砂実施決定から過去の経験値を踏まえて一定の時間後というのは一つの方法かなというような気がします。これがどういうふうに決まったのかというのを教えていただきたいと思います。

ちなみに、この実施決定から一定時間後にスタートして、終わりの時間はもしかしたら多少はご相談の余地もあるのかなという思いもありまして、その辺どんな運用が可能かどうかも含めて、開始と終わりの時間の決め方と、終わりのほうに関してはご相談の余地があるのかどうか、その2点について教えていただきたいと思います。

座 長

事務局、お願いします。

事務局

用水の取水停止と取水の開始ですが、基本的には用水管理者のほうで決めているということでございます。

合口用水のほうの運用がありますが、これは連携排砂が始まる前に出水がありますので、そのときの流量や濁りなどを見ながら用水管理者のほうで取水の停止を決めているということです。

取水の再開につきましても、当方で濁度、流量などの情報を提供させていただきながら、用水管理者とともに現地の状況も確認させてもらっております。また、濁り分を計測した

速報値を情報提供させていただきながら、取水開始を用水管理者のほうで決められているということでございます。

座 長

よろしいですか。

A 委員

ありがとうございました。そうすると、農業団体のほうに決定権があるということですか。

事務局

あくまでもそうです。

A 委員

そうすると、取水を止めるタイミングを逸するとまずいということはありませんか。

事務局

これは連携排砂をやる、やらないにかかわらず、雨が降って出水があって流量も出てきて濁度も出てくると用水管理者のほうでとめるという措置をやっておりますので、恐らく連携排砂のときは比較的大きな出水ですから、その状況を見ながら取水の停止という判断をされていると思います。

A 委員

ありがとうございました。

B 委員

関西電力さんから参考資料 1－1 のほうでご説明がございましたが、細砂通過放流の効果検証という資料が出ております。細砂通過放流につきましては、極めて粒径の小さい水中を浮遊しているような細かな土砂を下流へ通過させるとともに、ダム湖底付近に流れを発生させて、と説明がございましたけども、底質の変質を抑制して翌年度の排砂時の環境負荷を軽減させることを目的に実施されているというふうに承知をしております。

細砂通過放流の実施によりまして、短時間集中豪雨に対する対策を実施できなかった平成 20 年度に比べて、今回、9 月調査時の COD あるいは強熱減量等の上昇が抑制されるなど一定の底質変質の抑制に効果があったというふうに確認をされたところでございます。

また、梅雨時期の細砂通過放流の実施につきましては、梅雨明け後に比べて効果が低いということで、その実施基準等につきましては、先ほどもご説明がございましたが、平成 24 年度に見直しが行われて基準が見直され、今後とも実施の効果、環境負荷への影響等

も考慮して、排砂等のよりよい実施方法の検討に、基準の運用も含めて検討を進めていた
だきたいというふうに思っております。

座 長

今のは提言というか提案ということでよろしいですね。もし何か事務局で回答がありま
したらお願いします。

事務局

少し補足させていただきたいと思います。

細砂通過放流の検証につきましては、平成24年度、細砂通過放流の実施基準を満たす
流量が発生しませんでしたので平成25年度に実施させていただいたところでございます。
参考資料1-1でお示しさせていただいたとおり、細砂通過放流の効果というものも少し
見えるようになったのかなと思っております。

お話しいただいた点につきましては、こういったことも踏まえながら、またその他の環
境指標なども見ながら、よりよい排砂方法につきまして引き続き検討していきたいと思っ
ております。

A 委員

極めて事務的な話なのですが、資料-1-①の12ページをお願いしたいと思います。
事前に資料をいただいていたので見てきたのですが、資料-1-①の12ページの右隅に
1回から4回のフライトの記録が整理してあるのですが、その後ろに写真がついています。

本当に素直に不思議だなと思ったことがあるのですが、①と④に関して言うと、撮影さ
れているエリアがかなり限定されているんですね。②③は同じなのですが、河口付近から
猫又、近隣の河川まで撮られています、①は猫又がない。④の4回目のフライトは逆に
近隣河川がないということで、大体2時間ぐらいフライトされているのであれば、①から
④まで同じエリアを撮影すれば比較できるのではないかなと思いました。

仮にそれが可能ならば、後ろについている写真については、エリアごとに①から④の時
間の変化が見えるように配列していただくのも一つの方法かなと思ひまして、もしそれが
可能であれば、次回から写真の配列を変えるというようなこともまたご検討いただきた
いと思います。

以上です。

座 長

事務局、回答をお願いします。

事務局

実際の状況ですけれども、①は天候が悪くて上流のほうへ行けなかったというのがあります。それから、④につきましては、出水が完全に完了しているので、ほかの河川は撮らなかったということでございます。

今お話しいただいた整理の方法は少し検討させていただきたいと思います。基本的に天候さえ許せば上流のほうも近隣河川のほうも撮りたいとは思っています。しかし、そういった事情もあることをご理解いただきたいと思います。

(2) 平成25年度連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流に伴う環境調査結果について

(3) 第40回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について

座 長

議題2、議題3、まとめて審議したいと思います。

2つの説明につきまして質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

C委員

連携通砂で排砂後12万 m^3 ほどが流入したというような説明があったのですが、この土砂というのは、出し平ダム上流の河床にたまったものという理解なのでしょうか、それともどこか新しい崩壊地から出てきた土砂と考えればよいのでしょうか。

事務局

12万 m^3 は、出し平ダムの上流から通砂時に出し平ダムの湛水池内に流れ込んできたものです。それを堆砂測量した結果、排砂後から通砂後までの間にたまった数字でございます。

C委員

それはその河床にたまっていたものが押し出されてきたのか、新たな崩壊地などから出た土砂なのかということはわからないということですか。

事務局

そうですね。どちらから出た土砂かというのは明確にはわからず、両方であると考えています。

C委員

濁度もSSもかなり高いということでしたが、においについてはどうだったのですか。

事務局

実際、においというのは、底質調査結果等を見ましても特に感じられない状況でございます。

C委員

それは、宇奈月ダムでも出し平ダムでも、特にこれまでと違ったにおいはなかったということでしょうか。

事務局

そうです。今回の通砂後の底質調査結果を見ますと、特にこれまでとは違ってはいない

と考えています。

座 長

先ほどビデオの説明の中で崩壊地の説明がありましたが、何かもし補足がありましたら。推測の範囲なら推測の範囲でも結構です。

事務局

今回、通砂 1 日後にヘリコプターで可能な範囲で上流域の崩壊を確認いたしました。その結果、大きな崩壊地というものは見受けられず、これまで沢等にたまっていたところが大きな出水で押し流されて河道に出てきたのではないかと考えています。

座 長

よろしいでしょうか。

C 委員

はい。

座 長

ほかにご意見なり質問がありましたらお願いいたします。

〔質疑なし〕

座 長

資料－３のほうで委員会のほうでまとめていただきましたので、それが今年の調査結果の報告になったかと思いますので、議題 2 と議題 3 はこれでよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

座 長

では、続きまして議題 4 に移ります。

(4) 平成25年連携排砂、連携通砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見について

(5) その他

座 長

ただいまのご報告につきましてご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

A 委員

この資料－4については、漁業関係の方とか農業関係の方の思いが込められているのですが、こういった形で一つ一つしっかり記録として残していただいて、対応も非常に丁寧にやっけていただいているというところが本当にありがたいと思っています。こういった積み重ねが地域の方の理解と協力につながっていくのかなと思いますので、この姿勢は今後ともぜひ堅持いただきたいというふうに思います。

1つだけ、6ページをご覧くださいなのですが、6ページの⑥、これについては前回の会議でなかった意見というふうに受けとめていまして、1段落目と2段落目がありまして、1段落目の終わりの最後の2行、「漁具等への物理的な被害が発生することを強く懸念している」とあります。もちろん因果関係はわからないのですが、実際に、前回はなかった話ですが、今回の連携排砂等で定置網の網が破損したというトラブルがあったということで、それがこの背景になってこの意見が出てきているというふうに受けとめています。

それへのご対応に関しては、同じページの右側のほうに丁寧に書いていただけていますが、平成22年度の対応、23年度の対応と書いてあるのですが、大事なのは一番最後の3行でして、「今後ともよりよい排砂方法の検討を引き続き実施して参りたい」ということで、具体的に今の⑥の意見に対して、こういったようなアクションを起こされるお考えがあるとか、例えば平成26年度の計画を立てるに当たって、こういったようなことを検討したり、もしくは反映させたりするお考え、お気持ちがあるかどうかをお聞かせいただければと思います。

座 長

現時点で説明できる範囲でお願いします。

事務局

⑥の海面漁業団体からの意見につきましては、いろいろ排砂を取り巻く状況、集中豪雨ですとか宇奈月ダムの堆砂形状が以前より土砂が出やすくなってきている形状になってい

るとか、排砂を取り巻く状況が少しずつ変化してきていることは認識しております。さらに海域への影響とか河川的环境への影響とか、そういったご指摘も踏まえながら、今後ともよりよい排砂方法の検討を引き続き行っていきたいと思っております。

今具体的にここでお話できるものというのは、いろんなところと調整を図ってからでないとなかなかお話しできないのかなと思っております。海面漁業団体からのご意見、内水面漁業団体からの意見、農業関係団体からの意見、それぞれに少しずつ違う意見もいただいております。そういったところも踏まえながら、それぞれの団体の意見もお聞きしながら検討していくことが重要と思っております。

いずれにしろ、黒部川の特徴から、土砂が出てきやすい流域でございます。その土砂をダムにためればためるほど、また変質したり影響を与えることもございますので、ため込まないことも重要でございます。それから、排砂のオペレーションの時間を短くすることも重要なのではないかなと。

こうすればいいという要素はいろいろありますが、具体的な方法というのは、いろいろ検討させていただいて、関係機関とも調整させていただきながら考えていきたいと思っております。

A 委員

ありがとうございます。今おっしゃった方向でぜひよろしくお願いします。

座 長

また来年度の排砂方法は次回の協議会で多分報告、議論することになりますので、またそのときいろいろご議論なりよろしくお願いしたいと思います。

ほかにご意見、ご質問ありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

座 長

今の議題4に限らず、全般につきまして何かありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

座 長

もしご意見、ご質問がないようでしたら、まとめさせていただきたいと思います。

今日は4つの議題について報告、質疑がありました。

1点目は、平成25年度の連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流の実施経過につきまして事務局から説明がありました。今年は目標14万 m^3 に対して18万 m^3 の排砂となった

と。ただし、その後、連携通砂終了までに出し平ダムでは12万 m^3 が新たに堆積になったという報告がありました。

それから、細砂通過放流につきましては、ルールを決めて今回が初めてだったということで、これにつきましてもその効果検証の報告がありました。

委員のほうからは、まず細砂通過放流については、初めてやったということで、効果が見られるのではないかと。ただ、さらなる改善について検討いただきたいという意見がありました。

それから、上空からの写真ですね。特に見せ方について、同じ場所で時系列で見られるようにしたらいいのではないかとというご意見がありましたので、これらにつきましては事務局のほうでまた検討をいただきたいと思います。

それから、議題の2、平成25年度連携排砂・連携通砂及び細砂通過放流に伴う環境調査結果についてと議題の3、第40回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について事務局から報告がありました。資料-2を用いて今年の環境調査結果の報告、資料-3では評価委員会の評価の報告、評価委員会からは、一時的な環境の変化はあるものの大きな影響を及ぼしたとは考えられないという評価をいただいております。ただし、幾つかの項目につきましては引き続き注視する必要があるというような評価もいただいたところでございます。

委員のほうからは、12万 m^3 の理由につきまして質問がありました。今回の調査でSSとかCODとかかなり大きなデータ、値が確認されていますので、もし可能であればどうしてこうなったのかという検討を引き続きお願いしたいと思います。

それから、議題の4、平成25年連携排砂、連携通砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見について、意見とその対応状況について事務局から報告がありました。

この報告について委員の方からは、こういうこと自体は非常にいいことなので、この積み重ねということは引き続き続けてほしいということと、よりよい排砂方法の検討の中身について質問がありましたが、それはまた次回の協議会で議論していただくということでお願いしたいと思います。

以上がまとめでございます。

ただいま平成25年度の連携排砂に関しましてたくさんのご意見をいただきまして、それは了承されました。これらの意見、それから1月15日に開催されました第40回黒部

川ダム排砂評価委員会の意見を踏まえまして、事務局におきまして平成26年度の連携排砂計画及び環境調査計画を策定し、次回の協議会に提示していただきたいと思います。

では最後の議題ですが、5番、その他とありますが、何かありましたら報告をお願いします。

事務局

ございません。

座 長

では、以上で本日の議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

それでは、司会に進行役をお返しいたします。

4. 閉 会

司 会

長時間にわたり、熱心なご審議まことにありがとうございました。

以上をもちまして、第35回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。まことにありがとうございました。